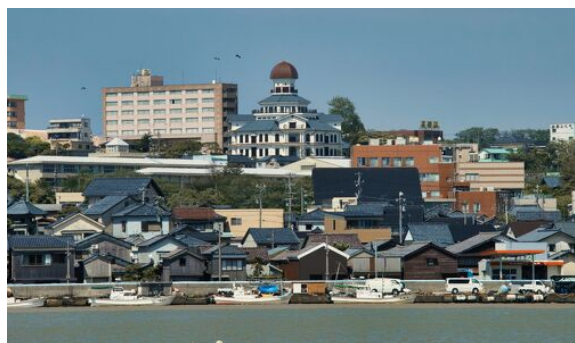


○ 水辺空間との関係性

湊町である三国の町家では、流通の肝となる川との接続がとても重要で、仕事や生活の場として利用されてきました。護岸道路の堤防の設置によって町から水面が見えにくくなってしまいましたが、現在も河川空間は三国の骨格となる重要な存在で、水辺の風景は三国の象徴として住民に親しまれています。



九頭竜川からの三国の町を眺める



ざしきから川に臨む風景



護岸道路の堤防

今後の課題

- ▶ 川や舟から見た時の屋根並みや蔵が立ち並ぶ風景を残していくために、建築物の保存が必要です。
- ▶ 現在は護岸道路により水辺空間との物理的な距離が開いていますが、散策路の整備やイベントでの水辺空間利用等により、水辺と関わる暮らし方の継承につながります。

○ 三国祭がつくる景観

三国祭の景観は、山車や出店、来場者だけが作るのではなく、山車の背景となる建築物やそこから祭を楽しむ人の姿も祭の重要です。多くの建築物ではミセ部分や二階などに祭を楽しむための空間が設けられています。また、親戚知人を呼んだ使い方や来場者にオープンな使い方など、三国祭の際ならではの使い方を残すことで、文化としての三国祭の保存継承に繋がります。



三国祭の山車



各区には山車小屋が設置されている



二階から三国祭を楽しんでいる



ミセ空間を祭に合わせて開放している

今後の課題

- ▶ 建替えに伴いミセ空間などセミパブリックな空間が消失することが多く、三国の町家ならではの三国祭の楽しみ方を発信していく必要があります。
- ▶ 山車が映える街路の幅員や建築物の高さを保っていくために、町並みの保存が重要です。